



ハムスターが、えさをほっぺたにためているのはなぜ

えさを運ぶため

ハムスターやリスなどは、両方のほっぺたの内側の皮が、くぼんでいて、ポケットのようになっています。そこに、食べ物をつめこんで、自分の巣などに運ぶことができます。野生のハムスターは、砂ばくのような所にいて、いつも食べ物があるとは限りません。また、ハムスターやリスなどは、体は小さいし、きばやつめなどのような、戦う武器をもっていません。キツネや、鳥などに、いつもねらわれていて、おいしそうなえさが目の前にあっても、その場で食べていると、危険です。そのため、できるだけ大急ぎで、たくさんのえさを舌を使って、ほっぺたのふくろにつめこみ、安全な場所に運びます。

巣についたら、えさを取り出す

ここなら安心、という自分の巣などに帰りつくと、前足で、ふくらんだほほを外からおし、じょうずにえさを取り出します。そこでゆっくり食べられるだけ食べて、残りは取っておきます。ちゃんと、くさりやすい水分の多いものは先に食べ、かわいた木の実など、保存しておける物を残しています。野生のヨーロッパハムスターは、1ぴきで45キログラムものイモや種をためていた例があります。

安全な場所で、えさがたっぷりあれば、ほっぺたにためない

飼われていて、いつもえさがたっぷりあるハムスターは、ほっぺたに食べ物をためる習性が、なくなりかけている場合もあります。こわい敵もないし、えさがたっぷりあれば、その場でゆっくり、木の実などを1つずつ食べるハムスターもいます。

(監修・今泉 忠明)

